

正誤表

書籍版『肺癌診療ガイドライン 2017年版-IV期非小細胞肺癌薬物療法』に誤りがございました。下記のとおり訂正し、お詫び申し上げます。

第1刷（2017年12月19日発行）

| 頁 | 訂正箇所 | 誤 | 正 |
|----|---------------------------------------|--|--|
| 4 | 「樹形図」 IV期非小細胞肺癌： サブグループの同定 | | |
| 8 | 「樹形図」 IV期非小細胞肺癌： 遺伝子変異陽性 > EGFR | | |
| 19 | CQ13 解説 1~2 行目 | ALK 遺伝子転座陽性の患者に対するアレクチニブは、PS 不良例に対する有効性が報告されている ¹³⁾ 。 | ALK 遺伝子転座陽性の患者に対するアレクチニブは、PS 不良例に対する有効性が報告されている ¹⁵⁾ 。 |

第1刷（2017年12月19日発行）および 第2刷（2018年1月30日発行）

| 頁 | 訂正箇所 | 誤 | 正 |
|----|------------------------|---|---|
| 36 | CQ27 解説 4~5 行目 | 非扁平上皮癌（CheckMate017 試験）、扁平上皮癌（CheckMate057 試験）をそれぞれ対象として試験を行った。 | 非扁平上皮癌（CheckMate057 試験）、扁平上皮癌（CheckMate017 試験）をそれぞれ対象として試験を行った。 |
| 37 | CQ27 解説 a, 14~16 行目 | ニボルマブは扁平上皮癌を対象とした Check Mate017 試験において、PD-L1 発現の有無を問わず DTX と比較し OS の有意な延長が示されている（9.2 カ月 vs 6.0 カ月，HR 0.59，95%CI：0.44-0.79， $P < 0.001$ ）。 | ニボルマブは扁平上皮癌を対象とした Check Mate017 試験において、PD-L1 発現の有無を問わず DTX と比較し OS の有意な延長が示されている（9.2 カ月 vs 6.0 カ月，HR 0.59，95%CI：0.44-0.79， $P < 0.001$ ） ⁴⁹⁾ 。 |
| 41 | CQ29 解説 b-1, 4 行目 | エビデンスレベルは低いものの骨髄抑制や血栓塞栓症、出血などの有害事象増加への懸念から、 | エビデンスレベルは低いものの骨髄抑制などの有害事象増加への懸念から、 |

平成 30 年 4 月 6 日

編者：特定非営利活動法人日本肺癌学会
発行：金原出版株式会社